

# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 金

### 【海外】

#### 1. 価格推移

| 10 月相場         | 高値                | 安値             |
|----------------|-------------------|----------------|
| ロンドン相場(\$/toz) | : 1,305.15 (16 日) | 1,261.80 (6 日) |
| 国内建値(円/g)      | : 4,715 (16 日)    | 4,631 (6 日)    |
| 為替相場(円/\$、TTS) | : 113.08 (16 日)   | 115.16 (27 日)  |

10 月の海外金相場は 2 日に\$1,273.10/toz(トロイオンス)でスタート、上旬ではドル高基調を背景に概ね\$1,270 水準を保ちながら推移した。ただ、週明けの 9 日には、6 日発表の米雇用統計の結果から若干ドルが下げたことで反発、10 日には\$1,290 水準へ到達した。その後、北朝鮮情勢やドル安を加味しながら上昇基調を辿り、週明けの 16 日には、前週末の 13 日発表の 9 月の米消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回り、米利上げのペースが鈍るとの見方から買いが優勢となり、前月下旬以来の\$1,300 台を回復した。

ところが、その後は世界的な株高ムードの中、価値が目減りしにくい「安全資産」とされる金を売る動きが強まり反落、18 日に\$1,280 水準へ後退すると、週明けの 23 日以降は\$1,270 台での軟調推移となった。月末までのこの間、上記の世界的な株高に加え、北朝鮮問題などの地政学リスクもひとまず後退したことも、「安全資産」の金売りを加速させた。27 日は米連邦準備理事会(FRB)次期議長指名問題も絡み、\$1,266.45 まで低下した。30、31 日は若干のドル安から反発、31 日には\$1,270 台を保って越月した。

#### 2. 為替相場推移

10 月の為替相場は 2 日に\$1=113.78 円(TTS 相場、以下同じ)と円安基調を保ってスタート、前週末の米長期金利の上昇を背景に日米の金利差拡大を意識した円売り・ドル買いが出たことや 2 日の米国株の最高値更新から上旬にかけて円安が進んだ。6 日に米労働省が発表した 9 月の雇用統計で非農業部門の雇用者数が前月比で 3 万 3 千人減ったものの、全米の失業率が前月から 0.2 ポイント改善したことで為替が大きく円高へ振れることはなかった。

中旬では北朝鮮の軍事的な挑発行動への警戒感の高まりから僅かながら円高が

進んだが、中旬後半では米国市場での株式相場と国債利回りが上昇したことで、円安が進み、日本での株高もあって円は\$1=114 円際まで後退した。

下旬では、22 日投開票の日本の衆院選での与党大勝を受け、日銀の緩和的な金融政策に当面大きな変更はないとの思惑が広がり、日米金融政策の方向性の違いを意識した円売り・ドル買いが優勢となった。月末までのこの間、米株安と米国債の利回り低下により一時的に円が反発する場面が見られたが、27 日には\$1=115.16 円と本年 7 月以来の円安・ドル高水準となった。しかし、30、31 日と米金利低下を背景に円高・ドル安が進んだため円が反発、31 日は\$1=114.16 円をつけて越月した。

対ユーロでは、円は概ね€1=133~135 円でやや小安く推移した。対ユーロでドル買いが進行したが、対円でもドルが買われたため、小幅な値動きに終始した。

## 【国内】

### 1. 建値推移

10 月の国内金山元建値は 2 日に 4,654 円/g(グラム)でスタートし、上旬にかけては 4,600 円台をキープした。16 日には海外相場の上げから 4,700 円台をつけるも、その後は海外相場の続落から、再び 4,600 円台での推移となった。31 日には 4,668 円とほぼ月初と同水準で越月した。

### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2017 年 9 月分=平成 29 年 9 月分)

生産 : 8,214 kg (前月比 6.7%減、前年比 10.5%減)  
出荷 : 9,132 kg (前月比 9.9%減、前年比 6.6%減)  
在庫 : 4,387 kg (前月比 17.3%減、前年比 6.0%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

9 月の生産は 3 か月連続の減、前年同月比も 2 か月連続の減。出荷は前月の反動で減少し、前年同月比では 2 か月連続の減。在庫は 2 か月連続の前月比減だが、前年同月比では 6 か月連続の増。

銅

## 【海外】

2017 年 10 月の LME 銅相場は月初の\$6,400/t 圏から上昇基調を辿り、月半ばには 2014 年 9 月以来となる\$7,000 台に乗せ、その後も\$6,900 圏を強調推移した。ドルは引き続き強調に推移したが、銅需給をめぐる明るい展望に相殺された。

米国経済は 8 月の建設支出が 3 か月ぶりのプラスとなり、製造業新規受注はハリ

ケーンの影響を受けて減少した前月に比べ増加に転じ、9月の米供給管理協会(ISM)の製造業景気指数(PMI)はハリケーンの影響を受けて2004年5月以来の高水準、10月14日終了週の新規失業保険申請件数は1973年3月以来の低水準となり、第3四半期GDP速報値は前期比3%増と市場予想を上回った。

中国経済は前月末、人民銀行が市中銀行の預金準備率を条件付きで引き下げる決定を下し、9月の銅輸入は430千tと今年3月に並ぶ高水準となり、工業生産は3か月ぶりの高水準に回復し、第3四半期GDPは前年同期比6.8%/年と前期比0.1ポイントの鈍化にとどまった。

欧州経済をめぐることは、欧州中央銀行(ECB)が来年以降の量的緩和策の縮小を決定した。

銅需給については、国際銅研究会が供給制約と需要増大を背景に今年が▲151千t、来年は▲104千tの供給不足予想を発表した。(後述参照)

供給障害要因としては、KGHMのグウォグフ第1銅製錬所(ポーランド)が10月3日、廃熱ボイラーのトラブルのため26日まで生産を停止した。生産損失量は14千t。

リオテントケネコットのガーフィールド銅製錬所(米)で10月8日、従業員1名が死亡する事故が発生した。ボイラーから堆積物の除去作業中に二酸化硫黄ガスを吸引したのが原因。このため、11日に操業を停止し、16日に銅と硫酸の出荷に不可効力条項を発動した。

フリーポートマクモランのグラスベルグ銅鉱山(インドネシア)では10月18日、作業員が有毒ガスを吸入し、1名が死亡、2名が重体となった。

一方、ミネラエスコンディーダ(チリ)は10月6日、第2労組(管理職労組)と新労働協約に合意したと発表した。有効期間は36か月。なお、第1労組は改正労働法に基づき、現行協約を2018年7月まで18か月間延長する権利を行使中。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2017年1~7月の世界の銅鉱石生産は前年同期比2.2%減の11,381千t、地金生産は横ばいの13,527千t、消費は横ばいの13,690千t。この結果、地金需給バランスは前年同期の▲281千tから▲163千tへと供給不足幅が縮小した。報告在庫は15.6%増の1,507千t、在庫/消費比率は2.7週間から3.1週間へとやや上昇した。

鉱石生産の内訳は精鉱が1.5%減少、SXEWは4.5%減少した。国別にはチリがエスコンディーダ鉱山のストライキとコデルコの生産減少の影響で7%減少した。カナダとモンゴルは低品位鉱体へのシフトの影響でそれぞれ22%、19%減少した。インドネシアは1~4月の精鉱輸出禁止により10%減少した。米国は鉱石品位低下、採掘量の減少、年初の天候障害の影響で9%減少した。しかしながら、メキシコ、ペルーは鉱山の新設、増強によりそれぞれ3%、5%増加した。地域別にはアジアが3%、ヨーロッパは2.5%増加したが、アメリカは5%、オセアニアは2%、アフリカは3%減少した。2017年第2四半期の世界生産は前期に比べ増加したが、前年同期比では

1%減少した。鉱山稼働率は 85.8%から 80.6%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が 1.5%減少、二次生産は 10%増加した。二次生産はとくに中国のスクラップ供給の増加を背景に増加した。国別には中国が 6.5%、インドが 7%増加、一部の EU 諸国も前年の定修閉鎖の反動で回復した。しかしながら、チリは電解、EW 生産ともに減少し 11%減少した。日本は 5%、米国は 9%減少した。地域別にはアジアが 4.5%、ヨーロッパは 4%増加したが、アメリカは 10%、オセアニアは 9%、アフリカは 3%減少した。精製工場の稼働率は 85.8%から 84.3%へと横ばいであった。

2017 年の精製銅消費はスクラップ供給の改善により伸びが抑制されている。中国を除く世界合計は 1%増加したが、中国の見掛け消費の減少に相殺された。中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は 2%減少した。国内生産が 6.5%増加したが、ネット輸入が 20%減少したことによる。その他の主要国ではインド、日本、米国が増加したが、ドイツ、韓国は減少した。

今後の需給動向については、国際銅研究会(ICSG)によれば、2017 年の世界の鉱石生産は前年比 2.7%減の 19,807 千t、地金生産は 1.0%増の 23,583 千t、消費は 1.0%増の 23,733 千t、需給バランスは前年の▲152 千tから▲151 千tと引き続き供給不足で推移すると予想される。

2018 年は鉱石生産が 2017 年比 2.5%増の 20,311 千t、地金生産は 2.5%増の 24,179 千t、消費は 2.3%増の 24,283 千t、需給バランスは▲104 千tと不足幅がやや縮小する予想。

鉱石生産については、2016 年はメキシコ、ペルーを中心に新規鉱山稼働や能力増強が相次ぎ、ストライキ、事故、天候障害などの供給障害も少なかった。それとは対照的に、2017 年はインドネシア、チリなどの重大な供給障害の影響を受け、主要生産国の生産が減少した。加えて、全般的な新規または能力増強プロジェクト不足、一部の国での鉱石品位低下が世界生産に否定的な影響を与えた。その結果、精鉱生産は約 2.5%、SXEW 生産は約 3.5%減少する。

2018 年はチリが生産抑制から回復し、コンゴ民主共和国(DRC)、ザンビアの休止/減産鉱山が再開し、新規/増強プロジェクトが立ち上げられ、2016 年並みの水準を回復する。

地金生産については、2017 年はチリ、日本、米国などの生産が主要製錬所の計画/計画外の定修、SXEW 生産の減少により大幅に落ち込むが、中国の能力増強、その他諸国の生産回復により一部相殺される。その結果、一次地金生産は 0.6%の増加にとどまる。一方、2016 年に減少した二次地金生産はスクラップ供給の緩和に伴い 4%増加する。

2018 年は生産抑制の解消、休止されていた電解/SXEW 操業の再開、中国の能力増強により世界生産が増加する。

地金消費については、2017年、2018年ともに世界経済の緩やかな回復を背景に増加するが、スクラップ供給の改善が一次地金需要の増加を抑制する。中国の2017年の“実際の”需要については約4%増との推定もあるが、見掛け消費はネット輸入の減少のため1%増にとどまる。2018年は見掛け消費、実際の消費ともに約3%増加する。中国を除く世界の消費は2017年が0.5%、2018年は1.5%増加する。

International Copper Study Group

Copper Market Forecast 2016-2017

| REGIONS<br>(1000 t)   | MINE PRODUCTION |        |        | REFINED PRODUCTION |        |        | REFINED USAGE |        |        |
|-----------------------|-----------------|--------|--------|--------------------|--------|--------|---------------|--------|--------|
|                       | 2016            | 2017   | 2018   | 2016               | 2017   | 2018   | 2016          | 2017   | 2018   |
| Africa                | 1,909           | 1,875  | 2,116  | 1,249              | 1,209  | 1,369  | 214           | 208    | 210    |
| N.America             | 2,936           | 2,725  | 2,825  | 2,015              | 1,940  | 1,997  | 2,334         | 2,333  | 2,359  |
| Latin America         | 8,350           | 8,144  | 8,708  | 3,199              | 3,004  | 3,114  | 463           | 430    | 448    |
| Asean-10/Oceania      | 2,100           | 2,010  | 2,139  | 1,082              | 1,067  | 1,138  | 1,063         | 1,132  | 1,176  |
| Asia ex-Asean/CIS     | 2,629           | 2,542  | 2,611  | 11,651             | 12,103 | 12,657 | 15,250        | 15,424 | 15,848 |
| Asia-CIS              | 684             | 825    | 856    | 429                | 438    | 438    | 103           | 103    | 103    |
| EU                    | 916             | 945    | 939    | 2,674              | 2,733  | 2,781  | 3,237         | 3,184  | 3,196  |
| Europe Others         | 835             | 842    | 855    | 1,040              | 1,109  | 1,135  | 827           | 920    | 943    |
| Total                 | 20,358          | 19,909 | 21,048 | 23,339             | 23,602 | 24,629 | 23,491        | 23,733 | 24,283 |
| World adjusted        | 20,358          | 19,807 | 20,311 | 23,339             | 23,583 | 24,179 | 23,491        | 23,733 | 24,283 |
| % change              | 6.3             | -2.7   | 2.5    | 2.0                | 1.0    | 2.5    | 2.0           | 1.0    | 2.3    |
| World Refined Balance |                 |        |        |                    |        |        | -152          | -151   | -104   |

ICSG Oct.2017

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10/2 770    10/6 790    10/12 800    10/17 840    10/20 830    10/25 840  
11/1 820

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2017年9月分=平成29年9月分)

生産 : 120,200t (前月比 7.4%減、前年比 5.1%減)  
出荷 : 134,800t (前月比 13.9%増、前年比 1.8%減)  
在庫 : 108,000t (前月比 10.7%減、前年比 9.1%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2017年9月の銅地金生産は一部製錬所の大規模定修のため前月比7.4%減、前年同月比5.1%減の120.2千tと2か月連続の減少となった。出荷は前月比13.9%増、前年比1.8%減の134.8千tで前月比が増加に転じたが、前年比は5か月連続の減少。内訳は内販が前月比13.9%増、前年比6.8%増の81.6千tで前年比は14か月連続の増加。輸出は前月比13.9%増、前年比12.7%減の53.2千tで前月比は3か月ぶりの増加、前年比は5か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年比8.2%増の49.6千tと3か月連続の増加。伸銅品向けは13.3%増の27.9千tで16か月連続の増加。在庫は前月比10.7%減、前年比9.1%増の108.0千tで前月比が3か月ぶりの減少、前年比は4か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、2017年9月の銅電線出荷は前月比11.9%増、前年同月比0.2%減の60.0千t(推定)と前年比は7か月ぶりの微減となった。うち内需は前年比2.3%減の57.1千tと7か月ぶりの減少、輸出は78.8%増の2.9千tで2か月連続の増加。内需の部門別には、自動車は17か月連続、その他内需は2か月連続、通信は3か月ぶりの増加となったが、電力は13か月、建設電販は4か月連続、電気機械は2か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、2017年9月の伸銅品生産は前月比13.7%増、前年同月比0.4%増の68.2千t(速報)と前年比は再び微増となった。うち内需向けは前年比0.7%減の56.4千tで2か月連続の微減、輸出は6.0%増の11.7千tで2か月ぶりの増加。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が17か月連続、自動車端子向けの黄銅条は9か月連続、コネクタ向けの青銅板条は2か月連続、エアコン向けの銅管は2か月ぶりの増加となった。

## 鉛

### 【海外】

2017年10月のLME鉛相場は鉛需給をめぐる明るい展望を背景に2011年9月以来の高値となる\$2,500/t水準を強調推移した。

国際鉛亜鉛研究会によれば、鉛需給動向は昨年の上14千tから今年は▲125千t、来年は▲45千tの供給不足予想が予想される。(後述参照)

米国経済は8月の建設支出が3か月ぶりのプラスとなり、製造業新規受注はハリケーンの影響を受けて減少した前月に比べ増加に転じ、9月の米供給管理協会(ISM)の製造業景気指数(PMI)はハリケーンの復興需要を受けて2004年5月以来の高水準、10月14日終了週の新規失業保険申請件数は1973年3月以来の低水準となり、第3四半期GDP速報値は前期比3%増と市場予想を上回った。

中国経済は前月末、人民銀行が市中銀行の預金準備率を条件付きで引き下げる決定を下し、9月の銅輸入は430千tと今年3月に並ぶ高水準となり、工業生産は3か月ぶりの高水準に回復し、第3四半期GDPは前年同期比6.8%/年と前期比0.1ポイントの鈍化にとどまった。

欧州経済をめぐるっては、欧州中央銀行(ECB)が来年以降の量的緩和策の縮小を決定した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~8月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比6.8%増の3,381千t、地金生産は4.1%増の7,659千t、消費

は 6.4%増の 7,778 千t、地金需給バランスは前年同期の+49 千tから▲119 千tへと供給不足に転じた。

鉱石生産はアジアが 16.9%、ヨーロッパは 5.5%、アフリカは 1.7%、アメリカは 3.2%増加。オセアニアは 26.7%減少した。国別には中国、インド、カザフスタンの増加がオーストラリアの大幅減少を相殺した。地金生産はアジアが7.8%、ヨーロッパは 1.3%、アフリカは 10.6%増加、アメリカは 4.3%、オセアニアは 7.3%減少した。国別には中国が増加、米国は減少した。消費はアジアが 9.6%、ヨーロッパは 3.5%増加、アメリカは横ばい、アフリカは 4.3%、オセアニアは 8.3%減少した。国別には中国、ヨーロッパ、米国が増加した。8 月末の地金の報告在庫は前年同月比 4.7%減の 486 千t、在庫/消費比率は 2.5 週間から 2.2 週間に低下した。

中国は鉱石生産が 15.7%増の 1,783 千t、鉛精鉱輸入は 4.0%減の 480 千t、地金生産は 9.1%増の 3,333 千t、地金の輸出入は 12 千tのネット輸出から 63 千tのネット輸入に転じた。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 12.4%増の 3,387 千tとなった。

International Lead & Zinc Study Group  
LEAD: World Production and Usage 2015-2018(1000t)

|                      | 2015<br>Actual | 2016<br>Actual | 2017<br>Easimate | 2018<br>Forecast | % Change<br>17/16 | % Change<br>18/17 |
|----------------------|----------------|----------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| Mine Production      | 4,781          | 4,790          | 5,057            | 5,114            | 5.6               | 1.1               |
| Europe               | 418            | 419            | 418              | 422              | -0.2              | 1.0               |
| Africa               | 84             | 87             | 87               | 85               | 0.0               | -2.3              |
| United States        | 370            | 347            | 320              | 315              | -7.8              | -1.6              |
| Other America        | 719            | 711            | 698              | 748              | -1.8              | 7.2               |
| Cina                 | 2,147          | 2,340          | 2,565            | 2,595            | 9.6               | 1.2               |
| Other Asia           | 389            | 445            | 520              | 500              | 16.9              | -3.8              |
| Oceania              | 654            | 441            | 449              | 449              | 1.8               | 0.0               |
| Refined Production   | 10,894         | 11,164         | 11,579           | 11,770           | 3.7               | 1.6               |
| Primary              | 4,588          | 4,644          |                  |                  |                   |                   |
| Secondary            | 6,306          | 6,520          |                  |                  |                   |                   |
| Europe               | 1,926          | 1,886          | 1,937            | 1,952            | 2.7               | 0.8               |
| Africa               | 92             | 99             | 106              | 108              | 7.1               | 1.9               |
| United States        | 1,050          | 1,123          | 1,000            | 1,000            | -11.0             | 0.0               |
| Other America        | 947            | 947            | 969              | 974              | 2.3               | 0.5               |
| Cina                 | 4,700          | 4,665          | 5,050            | 5,195            | 8.3               | 2.9               |
| Other Asia           | 1,956          | 2,220          | 2,296            | 2,319            | 3.4               | 1.0               |
| Oceania              | 223            | 224            | 221              | 222              | -1.3              | 0.5               |
| Refined Usage        | 10,867         | 11,150         | 11,704           | 11,815           | 5.0               | 0.9               |
| Europe               | 1,712          | 1,854          | 1,894            | 1,895            | 2.2               | 0.1               |
| Africa               | 103            | 98             | 96               | 96               | -2.0              | 0.0               |
| United States        | 1,535          | 1,612          | 1,630            | 1,660            | 1.1               | 1.8               |
| Other America        | 626            | 644            | 619              | 625              | -3.9              | 1.0               |
| Cina                 | 4,708          | 4,639          | 5,165            | 5,225            | 11.3              | 1.2               |
| Other Asia           | 2,166          | 2,286          | 2,283            | 2,297            | -0.1              | 0.6               |
| Oceania              | 17             | 17             | 17               | 17               | 0.0               | 0.0               |
| Statistical Balance  | 27             | 14             | -125             | -45              |                   |                   |
| Reputed Metal Stocks | 455            | 513            |                  |                  |                   |                   |

ILZSG Oct.2017

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

9/8 312    9/25 337    10/2 343    11/1 333

10月はLME鉛相場が\$2,500/t水準から\$2,400水準へ下降したことから、建値は11月初めに333千円/tへ下方修正された。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017年9月分=平成29年9月分)

生産 : 17,594t (前月比 2.5%増、前年比 7.0%増)

出荷 : 16,944t (前月比 16.1%増、前年比 4.4%減)

在庫 : 11,572t (前月比 6.5%増、前年比 52.6%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)



9月の生産は前月比、前年同月比とも増。出荷は前月比増だが、前年同月比では1～6月の好調さの反動から2か月連続の減。在庫は前月比増だが、前年同月比では24か月連続の減。

### 3. 需要部門動向

9月の自動車生産台数は前年同月比1.7%増の855,123台となり、11か月連続で前年同月を上回った。乗用車は前年同月比11か月連続のプラスだが、トラックは同2か月ぶりのマイナス、バスも同5か月連続のマイナス。

9月の自動車輸出台数は前年同月比2.6%減の423,721台となり、2か月ぶりに前年同月を下回った。

一方、9月の二輪車生産台数は前年同月比3.6%増の45,405台と12か月連続で前年同月を上回った。

(一社)電池工業会の調査によると、8月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で1,761千個(前年同月比±0%)と横這い、自動車用以外の鉛蓄電池は593千個(同7%増)と再び増加した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,354千個(同1%増)と11か月連続で増加した。

#### 鉛関連製品生産統計

|          |          | 8月      | 9月(速報値) |
|----------|----------|---------|---------|
| 自動車      | 数量(台)    | 695,912 | 855,123 |
|          | 前年同月比(%) | 105.7   | 101.7   |
|          |          | 7月      | 8月      |
| 自動車用鉛蓄電池 | 数量(鉛量t)  | 17,247  | 13,813  |
|          | 前年同月比(%) | 112.4   | 106.4   |

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

#### 【海外】

2017年10月のLME亜鉛相場は需給をめぐる明るい展望を背景に2007年8月以来と高値となる\$3,200～3,300/t圏を強調推移した。

亜鉛需給動向については、国際鉛亜鉛研究会によれば、昨年の▲106千tから今年は▲398千tへと供給不足幅が拡大し、来年も▲223千tの供給不足となると予想される。(後述参照)

米国経済は8月の建設支出が3か月ぶりのプラスとなり、製造業新規受注はハリケーンの影響を受けて減少した前月に比べ増加に転じ、9月の米供給管理協会(ISM)の製造業景気指数(PMI)はハリケーンの復興需要を受けて2004年5月以来の高水準、10月14日終了週の新規失業保険申請件数は1973年3月以来の低水準となり、第3四半期GDP速報値は前期比3%増と市場予想を上回った。

中国経済は前月末、人民銀行が市中銀行の預金準備率を条件付きで引き下げる決定を下し、9月の銅輸入は430千tと今年3月に並ぶ高水準となり、工業生産は3か月ぶりの高水準に回復し、第3四半期GDPは前年同期比6.8%/年と前期比0.1ポイントの鈍化にとどまった。

欧州経済をめぐることは、欧州中央銀行(ECB)が来年以降の量的緩和策の縮小を決定した。

供給障害要因としては、ノランダインカムファンドのバレーフィールド亜鉛製錬所(加)労組は10月2日、経営側が新たに提示した新労働協約提案を圧倒的多数で拒否した。労組は2月12日からストを続行中。操業は代替労働者により継続されているが、今年1~6月の生産量は101千tで前年同期比27%減。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~8月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比3.9%増の8,628千t、地金生産は8,941千t、消費は9,228千tとともに横ばい、地金需給バランスは前年同期の▲221千tから▲287千tへと供給不足で推移している。

鉱石生産はアジアが5.9%、アメリカは2.6%、ヨーロッパは2.1%、アフリカは16.7%増加、オセアニアは8.7%減少した。国別にはエリトリア、インド、ペルー、トルコの増加がオーストラリア、米国の減少に相殺された。地金生産はアフリカが4.7%増加、アジア、ヨーロッパ、オセアニアは横ばい、アメリカは4.0%減少した。国別にはカナダ、中国、韓国、タイが減少、インドは急増した。消費はアメリカとアフリカが5.4%、オセアニアは18.9%増加したが、アジアとヨーロッパは横ばいであった。国別には中国、ヨーロッパが微減となったが、日本、台湾、米国は増加した。8月末の地金の報告在庫は前年同月比23.1%減の1,101千t、在庫/消費比率は5.4週間から4.1週間に低下した。

中国は鉱石生産が2.1%減の3,292千t、亜鉛精鉱輸入は38.9%増の714千t、地金生産は2.8%減の3,957千t、地金のネット輸入は5.3%減の237千t。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は1.3%減の4,341千tとなった。

International Lead & Zinc Study Group  
ZINC: World Production and Usage 2014-2017 (1000t)

|                       | 2015<br>Actual | 2016<br>Actual | 2017<br>Estimate | 2018<br>Forecast | % Change<br>17/16 | % Change<br>18/17 |
|-----------------------|----------------|----------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| Mine Production       | 13,609         | 12,770         | 13,002           | 13,784           | 1.8               | 6.0               |
| Europe                | 970            | 1,001          | 1,034            | 1,065            | 3.3               | 3.0               |
| Africa                | 309            | 338            | 411              | 480              | 21.6              | 16.8              |
| Peru                  | 1,422          | 1,337          | 1,410            | 1,470            | 5.5               | 4.3               |
| Other America         | 2,531          | 2,534          | 2,469            | 2,626            | -2.6              | 6.4               |
| Cina                  | 5,068          | 5,145          | 5,000            | 5,340            | -2.8              | 6.8               |
| Other Asia            | 1,731          | 1,556          | 1,871            | 1,890            | 20.2              | 1.0               |
| Oceania               | 1,578          | 859            | 807              | 913              | -6.1              | 13.1              |
| Refined Production    | 13,657         | 13,725         | 13,528           | 14,055           | -1.4              | 3.9               |
| Primary               | 12,837         | 12,829         |                  |                  |                   |                   |
| Secondary             | 820            | 896            |                  |                  |                   |                   |
| Europe                | 2,477          | 2,395          | 2,396            | 2,499            | 0.0               | 4.3               |
| Africa                | 79             | 86             | 91               | 87               | 5.8               | -4.4              |
| Canada                | 683            | 691            | 605              | 680              | -12.4             | 12.4              |
| Other America         | 1,096          | 1,027          | 1,042            | 1,055            | 1.5               | 1.2               |
| Cina                  | 5,860          | 6,274          | 6,020            | 6,300            | -4.0              | 4.7               |
| Other Asia            | 2,973          | 2,782          | 2,890            | 2,928            | 3.9               | 1.3               |
| Oceania               | 489            | 470            | 484              | 506              | 3.0               | 4.5               |
| Refined Usage         | 13,487         | 13,831         | 13,926           | 14,278           | 0.7               | 2.5               |
| Europe                | 2,418          | 2,385          | 2,394            | 2,460            | 0.4               | 2.8               |
| Africa                | 188            | 165            | 178              | 182              | 7.9               | 2.2               |
| United States         | 931            | 792            | 889              | 907              | 12.2              | 2.0               |
| Other America         | 756            | 743            | 762              | 780              | 2.6               | 2.4               |
| Cina                  | 6,190          | 6,724          | 6,600            | 6,800            | -1.8              | 3.0               |
| Other Asia            | 2,865          | 2,885          | 2,954            | 2,999            | 2.4               | 1.5               |
| Oceania               | 139            | 137            | 149              | 150              | 8.8               | 0.7               |
| Statistical Balance   | 170            | -106           | -398             | -223             |                   |                   |
| Reported Metal Stocks | 1,465          | 1,375          |                  |                  |                   |                   |

ILZSG Oct.2017

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

9/1 394    9/7 385    9/15 379    9/21 409    10/5 430    10/12 421  
10/17 412    10/20 406    10/25 424    11/1 427

10月はLME 亜鉛相場が月央にかけて\$3,300/t水準から\$3,100水準へ下げたことで、建値は400千円/t近くまで続落したが、反対に月末にかけてはLMEが再び\$3,300水準へ復帰したことから、420千円台へ上昇した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017年9月分=平成29年9月分)

生産 : 44,350t (前月比 20.5%増、前年比 9.1%増)  
出荷 : 46,402t (前月比 3.9%増、前年比 3.5%増)

在庫 : 56,147t (前月比 2.0%減、前年比 22.6%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

9月の生産は前月比、前年同月比とも増。安中製錬所の長期定修明けが増加の主要因。出荷は前月に引き続き、めっき鋼板の販売が底堅かったことと輸出が堅調だったことから4か月連続の前月比増となり、前年同月比も3か月連続の増となった。在庫は出荷増から4か月連続の前月比減、前年同月比も8か月連続の減。在庫レベルは前月に引き続き、2013年(平成25年)12月の50,100t以来3年9か月ぶりの低水準となった。

### 3. 需要部門動向

9月の鉱工業生産指数は前月比1.1%減、前年同月比2.5%増の102.4(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりの低下、前年同月比は11か月連続の上昇となった。スマートフォン向けの電子部品やディスプレイ製造装置などが振るわなかったことが響いた。経産省は「生産は持ち直しの動き」とし、2016年11月から続く基調判断を据え置いた。

今年7~9月期の指数値は102.5、前期比0.4%上昇だった。この第3四半期では、7月と9月が前月比マイナスだが、それらを補う程に8月の上昇幅が高く、3か月をならずと6四半期連続の前期比プラスとなった。

9月の生産指数は15業種のうち9業種が前月を下回った。最も低下に寄与したのは電子部品・デバイス工業で、その次は汎用・生産用・業務用機械工業だった。

9月の出荷指数は前月比2.6%減の99.2と2か月ぶりにマイナスだが、前年同月比は1.4%増と11か月連続の増となった。

一方、在庫指数は前月比±0.0%の107.3、在庫率指数は前月比1.6%増の110.3と2か月ぶりに上昇した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、10月が前月比4.7%の上昇、11月は同0.9%の低下を見込んでいる。

8月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は再び前年同月比プラス。年末一杯はこのままプラスが継続しそうである。

8月の伸銅品生産量は59,981t(確報値、対前年同月比▲0.5%、対前月比▲15.3%)、13か月振りに微減ながら対前年同月比マイナスに転じた(6月+6.3%、7月+7.9%)。銅板・管、黄銅板・管・棒・線、洋白その他板条が対前年比マイナスとなった。銅条は16か月連続の対前年比プラス。銅管は6か月振りに対前年比マイナス。黄銅棒は16か月振りの対前年比マイナスとなった。銅棒は3か月連続の対前年比プラス。内需向け49,993t(速報値、以下同じ)、13か月振りに対前年比マイナス(▲0.3%)。輸出向けは10,104t、10か月振りに対前年比マイナス(▲0.4%)。

黄銅製品では、黄銅条が7,843t(対前年比+5.1%)、8か月連続のプラス(前年同

月比、内需+4.4%、輸出+12.2%)。黄銅棒は14,424t、16か月振りに対前年比マイナスとなった(対前年比▲1.4%)、(前年同月比、内需▲1.8%、輸出+7.3%)。

亜鉛関連製品生産統計

|         |          | 7月      | 8月      |
|---------|----------|---------|---------|
| 亜鉛めっき鋼板 | 数量(t)    | 849,603 | 894,915 |
|         | 前年同月比(%) | 96.1    | 104.6   |
| 黄銅製品    | 数量(t)    | 28,910  | 25,486  |
|         | 前年同月比(%) | 105.2   | 98.8    |
| 亜鉛ダイカスト | 数量(t)    | 1,715   | 1,478   |
|         | 前年同月比(%) | 107.7   | 109.2   |
| 亜鉛華     | 数量(t)    | 6,081   | 3,548   |
|         | 前年同月比(%) | 105.2   | 92.7    |

(出所:経済産業省生産動態統計調査)